

屏 風 岩 遺 跡

—株式会社前橋紙工工場建設事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

1 9 9 9

安中市埋蔵文化財発掘調査団

屏 風 岩 遺 跡

—株式会社前橋紙工工場建設事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

1999

安中市埋蔵文化財発掘調査団

序

安中市は群馬県の西南部に位置し、上毛三山に囲まれた田園都市です。古くは東山道が通り、江戸時代には中山道、そして現在は国道18号線と交通の要として栄えてまいりました。

今回の発掘調査は、株式会社前橋紙工が安中市板鼻字屏風岩における工場建設事業に伴うものです。

発掘調査により、古墳3基、浅間B軽石降下以前の溝状遺構が発見されました。屏風岩の周辺は数多くの古墳の存在が知られている地区で、行政区は高崎市になりますが、国指定史跡の観音塚古墳などがあります。

発掘調査前、当該地区内に古墳の存在は確認されていませんでしたが調査の結果、円墳が3基確認されました。この地域全体にわたり、現在目視できる以外にもこのように古墳が存在している可能性は多いと思われ、開発の時には注意が必要です。

発掘調査は、このような遺跡の様子を後世の人々に伝えてゆくために、記録保存の措置を講じるものです。

こうした、埋蔵文化財はかけがえのない郷土の遺産であります。市民の皆様にも郷土の歴史を学習していただけるよう、生きた教材として、社会教育、学校教育の場で広く活用を図り、文化財愛護の精神を広く普及するよう努めてゆく所存であります。

終わりに、発掘調査に御協力いただいた地元の皆様や、調査に従事していただいた大勢の方々にはこの場を借り厚く御礼を申し上げます。

平成11年1月

安中市埋蔵文化財発掘調査団

団 長 山 中 誠 次

本文目次

序

例言

凡例

本文目次

挿図目次

表目次

図版目次

I 調査に至る経過	1
II 調査の方法と経過	1
III 遺跡の地理的・歴史的環境	2
IV 層序	9
V 遺構各節	10
VI まとめ	19

挿図目次

第1図 屏風岩遺跡と周辺遺跡位置図	3
第2図 屏風岩遺跡位置図	7
第3図 調査区設定図	8
第4図 基本層序柱状図	9
第5図 K-1号墳実測図	11
第6図 K-2号墳実測図	12
第7図 K-2号墳石室実測図	13
第8図 K-3号墳実測図	15
第9図 K-1号墳・K-2号墳出土遺物 実測図	16
第10図 溝状遺構実測図(1)	17
第11図 溝状遺構実測図(2)	18

表目次

第1表 周辺遺跡一覧表(1)	4
第2表 周辺遺跡一覧表(2)	5
第3表 周辺遺跡一覧表(3)	6
第4表 出土遺物観察表	16

図版目次

図版1 屏風岩遺跡遠景、屏風岩遺跡全景	
図版2 1号墳全景、1号墳南瓦入口方向より、1号墳東西セクション 他	
図版3 2号墳全景、2号墳礎除去前、2号墳羨道部礎除去後、2号墳羨道部東壁 他	
図版4 サブトレンチ1、サブトレンチ2、1トレンチ、2トレンチ 他	
図版5 K-1号墳 壘、K-1号墳 長頸瓶、K-2号墳 壘、K-2号墳 坏 他	

例 言

1. 本書は株式会社前橋紙工が行う工場建設事業に伴う屏風岩遺跡遺跡（略称ビー４）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は平成元年7月14日より10月31日までの間実施した。遺物整理は発掘調査終了後断続的に実施した。なお、調査及び整理は株式会社前橋紙工からの委託金により実施した。
3. 調査主体は安中市埋蔵文化財発掘調査団であり、調査は安中市教育委員会社会教育課文化財係主任千田茂雄が発掘調査員として担当した。
4. 本書の編集は千田が行い、執筆も千田が行った。
5. 遺構の写真撮影は千田、森由一が行ったが、航空写真は（有）青高館に委託した。
6. 遺構の実測は千田、森、金井武、田中利策、松本燕子、下マスエが行った。
7. 遺物の写真撮影は、千田が行った。
8. 遺物の実測及び遺構・遺物のトレースは千田、氏家芳子、稲葉恵美子が行った。
9. 図版、写真図版の作成は千田、氏家、稲葉、鬼形教子が行った。
10. 本調査における記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。
11. 発掘調査及び遺物整理の期間中多くの方々には有益な指導、助言、協力を行っていただいた。また発掘調査及び遺物整理に従事していただいた方に厚くお礼申し上げます。

凡 例

1. 遺跡全体図の縮尺は1/200である。
2. 遺構の縮尺は1/160である。
3. 遺物の縮尺は次のとおりである。
土器大型 1/6 土器小型 1/4
4. 十層説明中での記号、略称は次の通りである。
色調く：より明るい方向を示す（例1<2：1より2の方が明るい）
しまり、粘性 ◎：あり、○：ややあり、△：あまりない、×：なし
混入物 ◎：大量、○：多量、△：少量、*：若干、×：なし、
A s △：浅間A軽石、A s - B：浅間B軽石、Y P：坂鼻黄色軽石層

I 調査に至る経過

平成元年4月、株式会社前橋紙工より安中市板鼻字屏風岩463-1他7筆において工場建設を行うにあたり、埋蔵文化財の取扱いについて安中市教育委員会へ照会があった。

該当地域は、周知の埋蔵文化財包蔵地であり古墳が多く存在している地区のため、その旨の回答を行った。その後株式会社前橋紙工、土地所有者である株式会社東興、測量及び事務手続き代行を行っている有限会社グリーン測量設計、市教育委員会の間で協議を行った。しかし、計画変更をしても遺跡地を回避することは難しく、計画の変更はできないとの結論に至った。そして、実際にどのような文化財が埋蔵されているのかを確認するため、開発地域内の試掘調査を行った。その結果、古墳と溝の存在が確認された。そのため切り土や建物の建設により影響を受ける部分を中心に発掘調査を実施して、記録保存の措置を講ずることとなった。

II 調査の方法と経過

試掘調査は平成元年7月14日より開始され、平成元年7月28日までの間実施した。調査は事業計画地内全域に幅約2mの試掘トレンチを設定して行った。調査はバックホーによりIV層（暗褐色土）上面まで掘削し、その後人力により遺構、遺物の確認作業を実施した。確認された遺構は図面に記録を行った。

発掘調査は平成元年8月24日より開始され、平成元年10月31日までの間実施した。調査は試掘調査によって遺構が確認された部分を中心に、事業実施に伴う造成による切り土や、建物建設によって遺構に影響が及ぶ箇所について記録保存の措置を講ずることとした。

調査はまず、開発地区内の発掘調査対象地区全域を、網羅するようグリッドの設定を行った。1グリッドは4m×4mで北西隅を基点とし、北から南へA、B、C…西から東へ1、2、3…と呼称するようにした。

調査にあたっては、バックホーによりIV層（暗褐色土）上面まで掘削し、その後人力により遺構、遺物の確認作業を実施した。また確認された遺構は順次精査を行い、平板による測量及び必要に応じ上層断面図を作成した。また、遺物の取り上げは遺構毎に行った。それらと並行して遺構、遺物の写真撮影を行った。

遺物整理は、発掘調査終了後から断続的に実施した。

作業は、遺物の水洗・注記→接合・復元→実測・拓本→トレース・写真撮影の順で行い、並行して遺構図面の整理・素図作成、トレース、写真整理を行った。

Ⅲ 遺跡の地理的・歴史的環境

安中市は群馬県の西部に位置し、市域を東西に分断するように碓氷川が流れている。この碓氷川の北側には九十九川が流れ、これらの河川流域には河岸段丘が発達している。

屏風岩遺跡は、碓氷川と九十九川の合流点右岸の丘陵、安中市板鼻地区宇屏風岩地内に所在している。板鼻地区は安中市の東端、鳥川上位段丘上に位置し、遺跡のある屏風岩周辺は、標高14.8m前後で緩やかに東へ傾斜し、高崎市と群馬郡榛名町の行政区境に接している。遺跡の西には大谷津川が谷を刻み流れ、比高差約2.2mを計り、南の碓氷川との段丘比高差は約3.3mを計る。

板鼻地区は古くは東山道が通り、鎌倉時代以降は鎌倉街道との分岐点で、江戸時代には中山道の宿場町として栄えていたため、歴史的遺物や旧蹟等が多く残っている。本遺跡周辺にも数多くの遺跡の存在が知られ、特に古墳の存在が顕著である。

遺跡周辺には、板鼻古墳群として多くの古墳が確認され、また、隣接する高崎市には国指定史跡の観音塚古墳（84）をはじめ平塚古墳（87）、二子塚古墳（86）など多くの古墳が存在している。古墳以外には、遺跡の西、天神山の麓に後期旧石器時代の集落と中世館址が確認された古城遺跡（a）がある。古城遺跡の南東には戦国期の城郭で、「螺郭式」と呼ばれる珍しい構造の板鼻城址（b）がある。そして、この城に付随し東に小丸田曲輪（上の山出丸）（c）、南西の鷹の巣の崖上には鷹の巣出丸（d）がある。他にも本遺跡のある丘陵上には、高崎市の行政区内になるが、縄文時代の敷石住居、稲荷塚・峯林・大塚古墳を保存整備した若田遺跡（78）、弥生時代から奈良・平安時代の集落遺跡である八幡遺跡（88）、八幡遺跡に含まれると考えられている四ノ市遺跡（85）、弥生時代後期の集落址である剣崎遺跡（79）、古墳時代から平安時代の集落遺跡である八幡中原遺跡（82）など多くの遺跡が存在する。

このように、本遺跡の存在する丘陵上には数多くの遺跡が存在し、旧石器時代から連続とした人々の生活の場として、また墓域として利用されていたことがわかる。



第1圖 屏風岩遺跡之周辺遺跡位置圖

NO	市NO	大字	小字	地番	備考
1	1135	板鼻	大谷津	1026	
2	1134	板鼻	上井ノ毛	951	板鼻2号墳 前方後円 (井ノ毛塚) 『安中市誌』
3	1133	板鼻	銚子塚	850	板鼻3号墳 前方後円 (銚子塚) 『安中市誌』
4	1132	板鼻	屏風岩	464-2	(板鼻古墳群) 屏風岩遺跡
5	1130	板鼻	屏風岩	464-1	(板鼻古墳群) 屏風岩遺跡
6	1131	板鼻	屏風岩	467	(板鼻古墳群) 屏風岩遺跡
7	1129	板鼻	屏風岩	427-2	(板鼻古墳群) 市台帳NO1
8	1128	板鼻	毘沙門	391	(板鼻古墳群) 市台帳NO1
9	1127	板鼻	毘沙門	390-1	(板鼻古墳群) 市台帳NO1
10	1125	板鼻	毘沙門	390-1	(板鼻古墳群) 市台帳NO2
11	1124	板鼻	毘沙門	380	
12	1122	板鼻	毘沙門	372	
13	1121	板鼻	毘沙門	387	板鼻1号墳 市台帳NO1 『安中市誌』 (荒木塚立的塚) 前方後円 後円部富あり
14	1123	板鼻	毘沙門	371	
15	1126	板鼻	毘沙門	367-2	(板鼻古墳群) 市台帳NO1
16	1136	板鼻	稲荷木	1318-1	(稲荷木遺跡) 市台帳NO4 『安中市誌』
17	1137	板鼻	本町	2049-1 2049-2	板鼻4号墳 市台帳NO3 『安中市誌』 直刀鏡 (遺物) 屋敷神を祀る 直刀鏡 金環
18	1138	板鼻	上町	1867	(遠見石)
19	1190	岩井	東	543-2	岩野谷5号墳 市台帳NO13 円墳 玉刀鏡
20	1189	岩井	東	524	岩野谷5号墳 市台帳NO13 円墳 玉刀鏡 花楸界に信仰あり 『安中市誌』
21	1192	岩井	西	638-2	岩野谷2号墳 円墳 石槨あり
22	1193	岩井	西	638	岩野谷1号墳 円墳 石槨の一部あり
23	1194	岩井	西	643	岩野谷3号墳 円墳 石槨あり 玉類
24	1191	岩井	西	775-1	岩野谷4号墳 市台帳NO14 円墳 埴輪破片
25	1195	岩井	西ノ平	870	岩野谷7号墳 市台帳NO16 円墳 (岩井古墳群)
26	1201	岩井	西ノ平	850	岩野谷5号墳 市台帳NO15 円墳 石槨露出
27	1200	岩井	西ノ平	862-2	岩野谷6号墳 市台帳NO16 円墳 金環 直刀 (岩井古墳群)
28	1214	野殿	峯	569	岩野谷5号墳 市台帳NO18 安中市 野殿天主塚 円墳 石槨 定文化財 (野殿天主塚) 『安中市誌』

第1表 周辺遺跡一覧表(1)

N0	市N0	大字	小字	地番	備考
29	1196	岩井	西ノ平	984	岩野谷17号墳 円墳 金環
30	1197	岩井	西ノ平	938	岩野谷10号墳 円墳
31	1198	岩井	西ノ平	962-1 965-1	岩野谷18号墳 前方後円 石柵一部露出 (墓塚) 『安中市誌』
32	1199	岩井	西ノ平	752-1	岩野谷20号墳 円墳 石柵一部露出
33	1254	岩井	西ノ平	752-1	岩野谷21号墳 円墳 石柵一部開口
34	1202	岩井	向平	1050	
35	1203	岩井	西原	1045	岩野谷25号墳 市台帳N011 円墳 石柵開口
36	1207	岩井	上ノ原	1670-3	市台帳N012
37	1205	岩井	西原	1314	
38	1204	岩井	西原	1295	
39	1217	野殿	原貝戸	4055	岩野谷26号墳 円墳
40	1220	野殿	原貝戸	4016	
41	1221	野殿	原貝戸	4014	岩野谷29号墳 円墳
42	1218	野殿	原貝戸	4038	岩野谷31号墳 円墳
43	1240	大谷	後道東	391-1	岩野谷49号墳 市台帳N07 円墳 石柵開口
44	1239	大谷	後道東	443	岩野谷51号墳 市台帳N08 円墳 石柵開口
45	1235	大谷	後谷津	124	岩野谷47号墳 円墳 石柵開口
46	1206	岩井	西原	1359	
47	1219	野殿	原貝戸	4035	岩野谷33号墳 円墳
48	1223	野殿	原貝戸	4009	岩野谷27号墳 円墳 石柵開口
49	1222	野殿	原貝戸	4010	岩野谷30号墳 円墳
50	1232	大谷	西原	44	岩野谷38号墳 円墳 石柵一部あり
51	1224	野殿	原貝戸	3976	岩野谷8号墳 円墳
52	1227	野殿	原貝戸	3973	岩野谷37号墳 円墳 石柵一部あり
53	1226	野殿	原貝戸	3974	岩野谷36号墳 円墳
54	1225	野殿	原貝戸	3973	岩野谷35号墳 円墳
55	1250	野殿	原貝戸	4035	岩野谷34号墳 円墳
56	1229	大谷	西原	53	岩野谷58号墳 円墳
57	1228	大谷	西原	50	岩野谷39号墳 円墳 石柵一部あり
58	1238	大谷	道坂	184-1	岩野谷52号墳 市台帳N09 円墳 石柵開口
59	1230	大谷	西原	54	岩野谷41号墳 円墳 石柵開口
60	1231	大谷	西原	54	岩野谷40号墳 円墳
61	1253	大谷	西原	67	岩野谷44号墳 円墳 石柵一部開口
62	1234	大谷	西原	67	岩野谷42号墳 円墳 石柵開口

第2表 周辺遺跡一覧表(2)

NO	市NO	大字	小字	地番	備考
63	1252	大谷	西原	67	岩野谷43号墳 円墳 石櫛一部開口
64	1233	大谷	西原	69	岩野谷45号墳 円墳 石櫛開口
65	1237	大谷	道坂	165	岩野谷53号墳 市台帳NO10 円墳 石櫛開口
66	1251	大谷	西原	69	岩野谷46号墳 円墳 石櫛一部開口
67	1212	岩井	丙根岸	2157	根岸古墳群 市台帳NO6
68	1211	岩井	丙根岸	2157	根岸古墳群 市台帳NO6
69	1210	岩井	丙根岸	2155-1	根岸古墳群 市台帳NO6
70	1209	岩井	丙根岸	2113	根岸古墳群 市台帳NO6
71	1208	岩井	丙根岸	2111	根岸古墳群 市台帳NO6
72	1213	岩井	甲倉品	2286	
73	1241	大谷	長谷津	847-1	
74	1242	大谷	桑原	895-2	
75	1215	野殿	屋敷前	2267	
76	1216	野殿	屋敷前	2266	
77	1236	大谷	下田	159	岩野谷59号墳 円墳

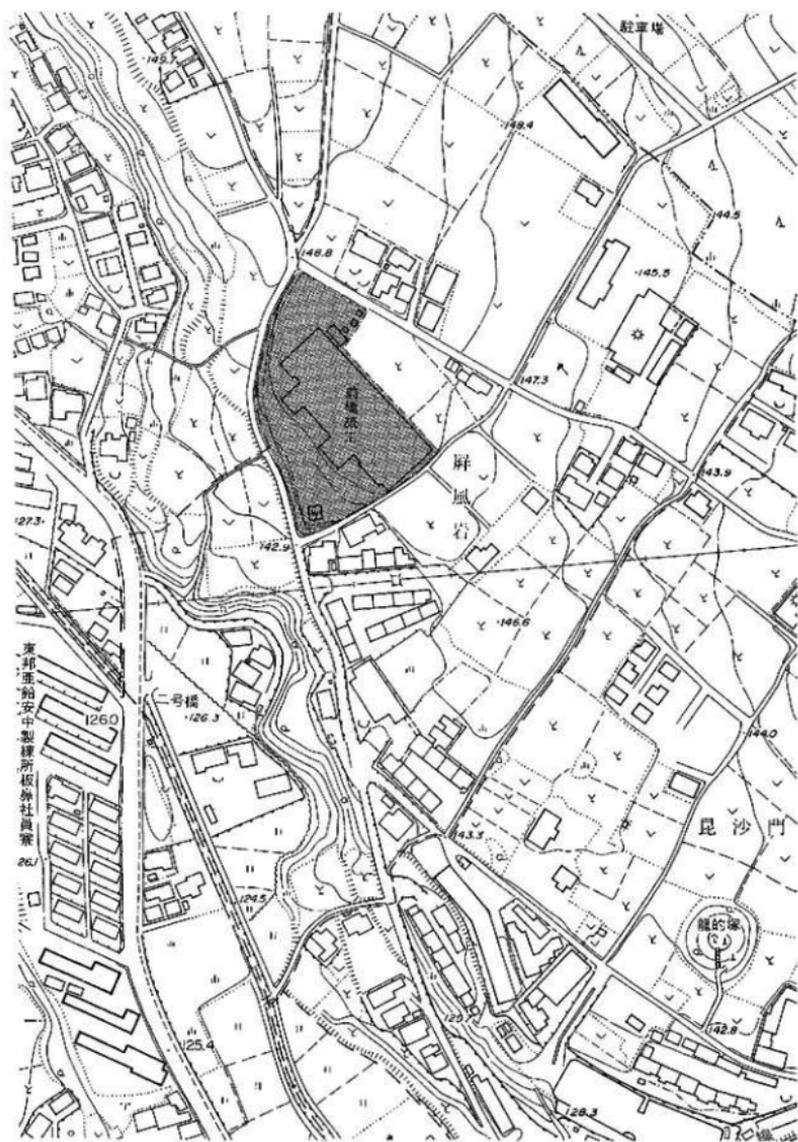
高崎市

NO	遺跡名	備考
78	若山遺跡	縄文時代 古墳 奈良・平安時代住居
79	剣崎遺跡	弥生時代住居（樽式期）
80	長瀬西古墳	円墳 自然石積み整穴式石室
81	大島原遺跡	縄文時代敷石住居他 古墳時代住居、祭祀跡、古墳
82	八幡中原遺跡	旧石器数点 古墳時代住居 奈良・平安時代住居
83	七五三引遺跡	古墳時代住居（鬼高）
84	観音塚古墳	古墳（国指定史跡）
85	四ノ市遺跡	弥生時代住居（樽式期） 古墳時代住居（和泉～鬼高）
86	二子塚古墳	古墳（前方後円墳）
87	平塚古墳	古墳（前方後円墳）
88	八幡遺跡	弥生時代住居（樽式期） 古墳時代住居（石田川） 古墳（前方後円墳）（円墳）

第3表 周辺遺跡一覧表(3)



第2圖 屏風岩遺跡位置圖 (1:10,000)

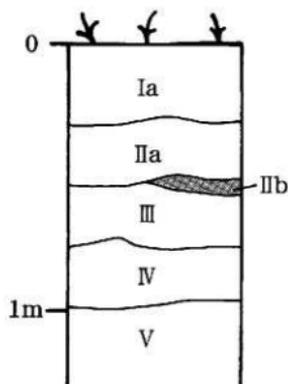


第3図 調査区設定図 (1 : 2,500)

IV層序

屏風岩遺跡の基本層序は第4図のとおりである。浅間B軽石（A s - B : 1 1 0 8年降下）が部分的に確認される。

- | | | |
|--------|---------|----------------------------------------|
| I a 層 | 黒褐色土層 | 浅間A軽石を多量に混入する。現在の耕作土で、しまり、粘性共にあまりない |
| II a 層 | 黒色土層 | 粘性はややあるが、しまりはあまりない。A s - B 軽石を多量に混入する。 |
| II b 層 | 灰褐色軽石層 | 浅間B軽石純層。 |
| III 層 | 黒色土層 | 遺構の覆土の主体を成す層である。粘性はややあるが、しまりはあまりない。 |
| IV 層 | 暗褐色土層 | III層より明るく、しまり、粘性共にある。 |
| V 層 | 黄褐色粘質土層 | この層からローム層となる。粘性、しまり共にある。 |



第4図 基本層序柱状図

V 遺構各節

屏風岩遺跡からは、古墳3基、調査区の西端を南北に走る溝状遺構1条を確認した。

(1) 古墳

K-1号墳(第5図)

本墳は現在の耕作により完全に平夷されており、試掘調査によって確認された。耕作により墳丘はほとんどの部分が削平され、石室もすでに石が全て除去されていて掘り方が確認されたのみであった。形状は円墳で、現況での墳丘規模は直径約1.2m、周溝まで含めると直径約2.0mを計る。

主軸部は掘り方のみの確認となったが、南に開口しており長さ約7m、幅約4mを計り、主軸方向はN-2° Wである。周堀の内側及び外側に多くのピットが検出され、覆土の状態などから本墳に伴うものが多いと考えられる。

遺物は、周堀内から須恵器壺、須恵器長頸瓶が検出された。

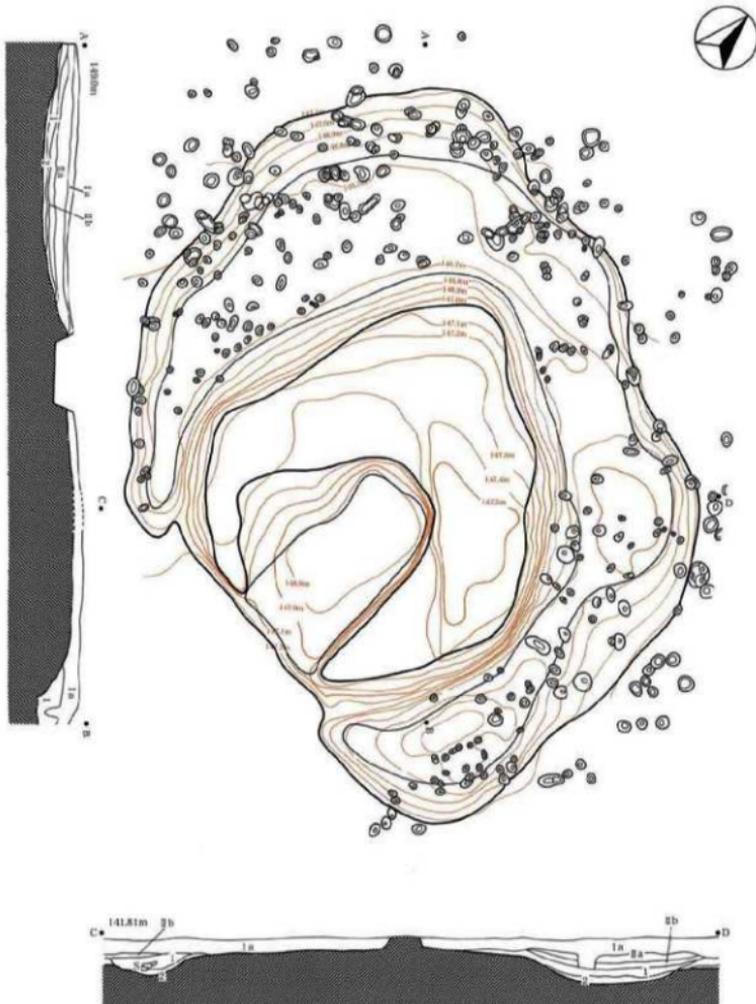
K-2号墳(第6・7図)

本墳も現在の耕作により完全に平夷されており、試掘調査によって確認された。調査区の南東隅にあり1部が調査区外となる。現在の耕作により墳丘はかなりの部分が削平されていた。形状は円墳と思われるが、現況での墳丘及び周堀平面形はかなりのゆがみを持つ。現況での墳丘規模は直径約8mと推測され、周堀まで含めると直径約2.0mの規模を有すると思われる。

主軸部は南に開口し、玄室部分が削平されてしまっているが両袖型の横穴式石室で、川原石と思われる自然石にて構築されている。石室規模は、羨道入り口から玄室奥壁まで4m10cm、羨道の幅90cmを計り、主軸方向はN-1° -Wである。羨道部床面は5cm前後の礫が敷かれ、羨道部入り口には閉塞時に係わるものと思われる、20cm程の楕円形の礫が2列確認された。裏込めは羨道部、玄室部共に確認され、5cmから15cm程の自然礫による裏込めが施されていた。

周堀は、K-1号墳同様多くのピットが検出され、やはり覆土の状態などから本墳に伴うものが多いと考えられる。

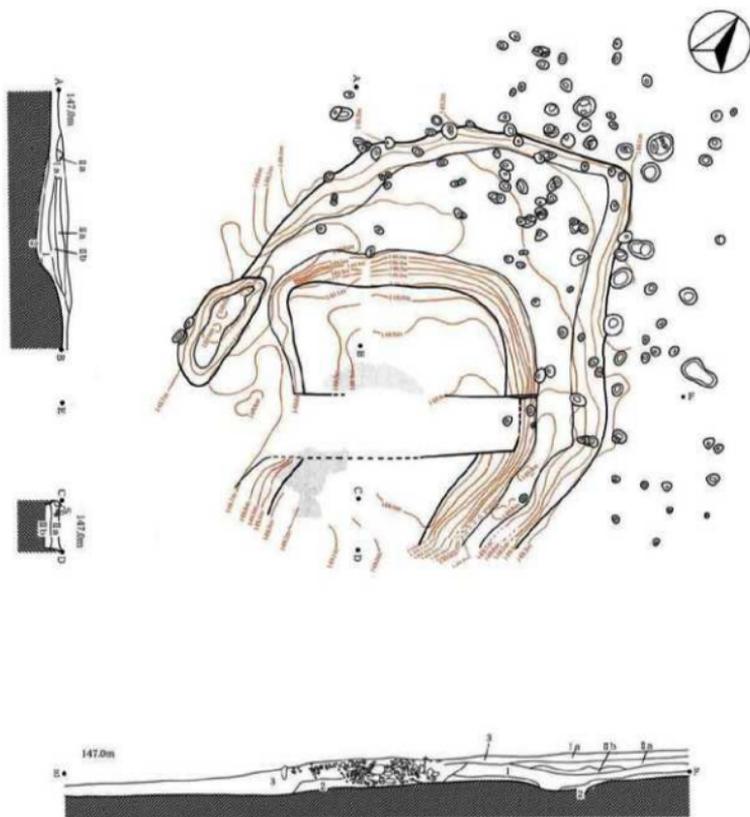
遺物は、周溝内から土師器杯、須恵器甕、須恵器長頸瓶が検出された。



層別	名	色調	土質	柱状	透入物	備考
1	黄褐色土層	○	△	△	As-H YF 瓦石	
2	暗褐色土層	○	△			△
3	暗黄褐色土層		△	○		○



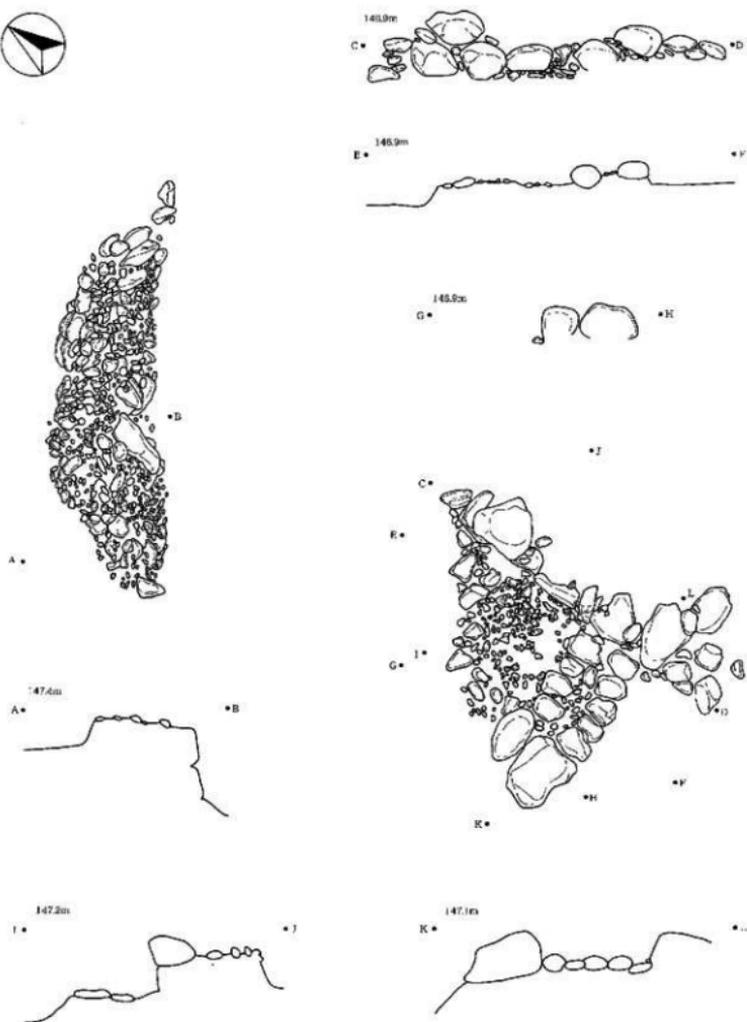
第5図 K-1号墳実測図



層別	層名	色澤	L.R.F.	柱状	埋入物			備考
					A-A	Y.P.	R.B.	
1	黒棕色土層		○	△	△			
2	暗棕色土層		○	△			△	
3	暗黄棕色土層		△	○			○	

第6図 K-2号墳実測図

0 8m



第7图 K-2号墳石室実測图

K-3号墳（第8図）

本墳もK-1号墳、K-2号墳同様現在の耕作により完全に平夷されており、試掘調査によって確認された。現在の耕作により墳丘はほとんどの部分が削平され、石室もすでに石が全て除去されていて掘り方が確認されたのみであった。形状は円墳で、現況での墳丘規模は直径約10m、周堀まで含めると直径約20mの規模を有する。

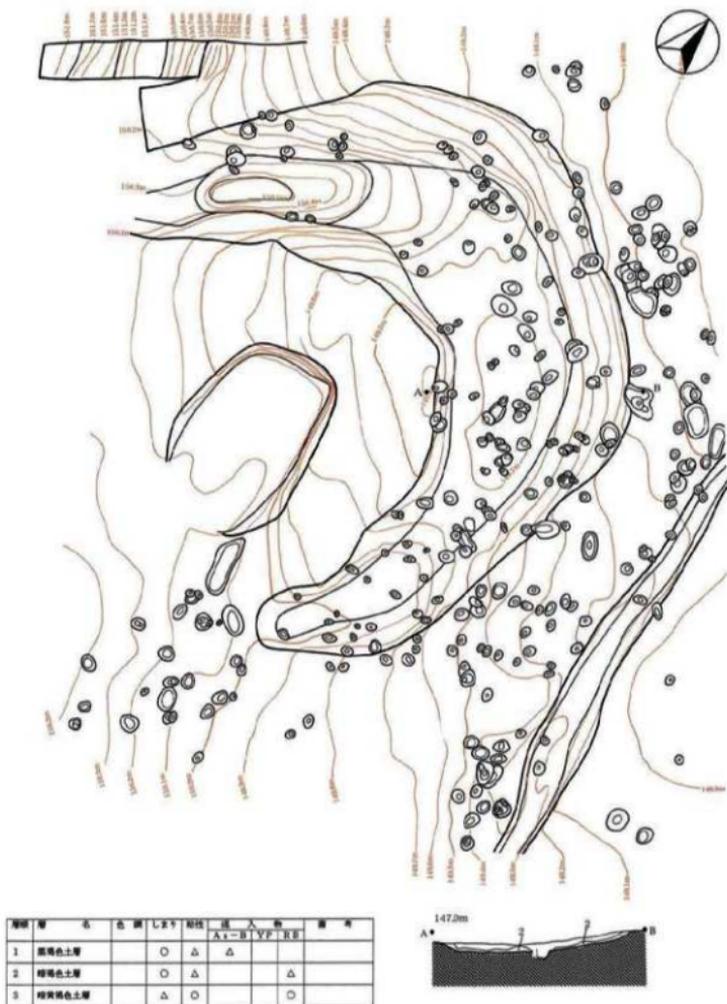
主体部は掘り方のみ確認となったが、南に開口しており長さ約6m40cm、幅約4m40cmを計り、主軸方向はN-7°-Wである。周堀にはK-1号墳、K-2号墳同様多くのピットが検出され、覆土の状態などから本墳に伴うものが多いと思われる。

遺物は、周堀内及び周辺からも検出されなかった。

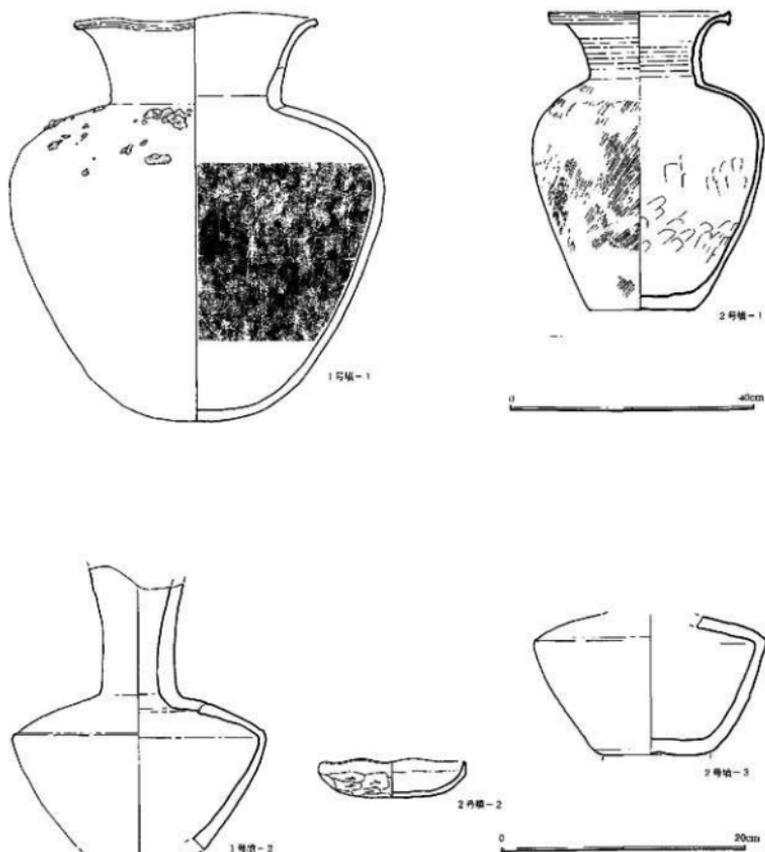
（2）溝状遺構（第10・11図）

調査区の西側に現道に沿うように溝状の遺構が確認された。時間的な制約等もあったため、トレンチ調査によって確認することとした。

溝は調査区北端部分で幅約3m60cm、深さ約40cmを計る。調査区中央付近で溝は2条となり、それぞれの溝の規模は幅約3m、深さ約60cm、幅約2m50cm、深さ約90cmを計る。また、この部分では溝の上端部に石垣を確認した。石垣の規模は長さ約5m、高さ（最大部）約66cmを計る。調査区南では溝の確認は1条のみで、規模は幅約4m、深さ約60cmを計る。溝の中から遺物などは確認されず、遺構の明確な時期は確認できなかった。しかし、覆土を見るとA s Bを多量に含む土層に覆われ、それより下層からA s Bが確認されないことなどから、B層石降下以前に溝がつくられていたことが推測される。また、溝の下層には水性堆積の様子が見られ、この遺構が機能していた当時は、溝の中に水が存在していたと思われる。



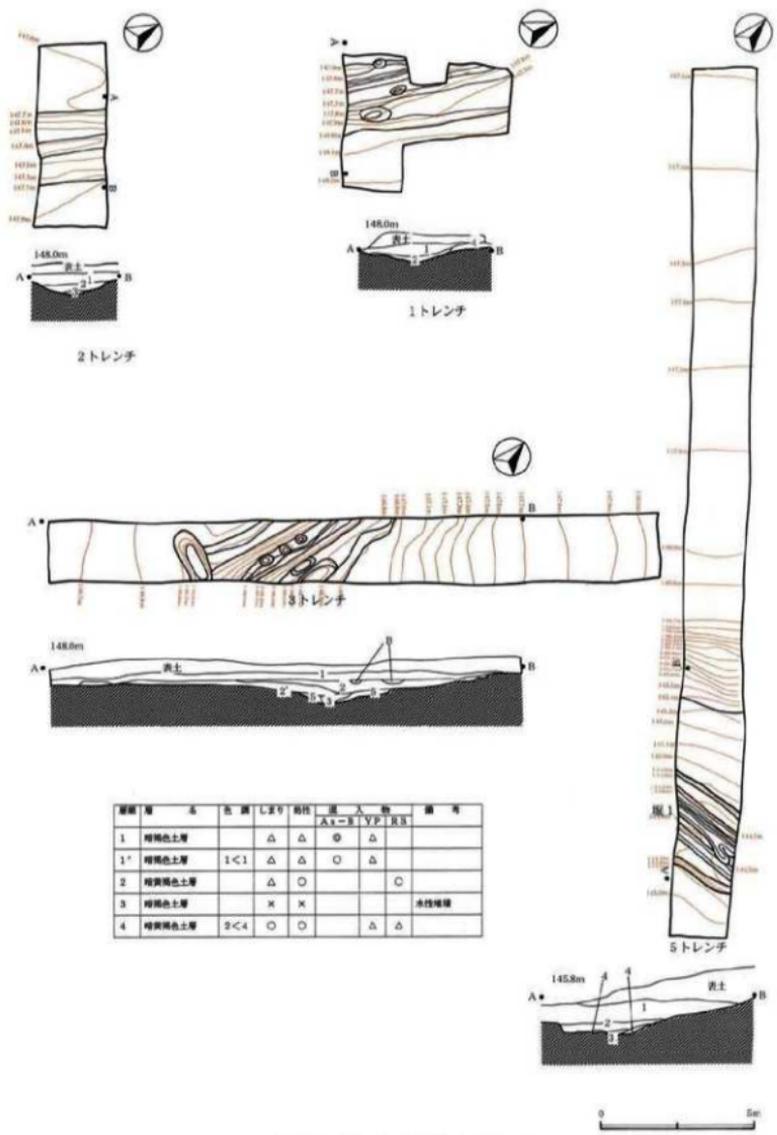
第8图 K-3号填实测图



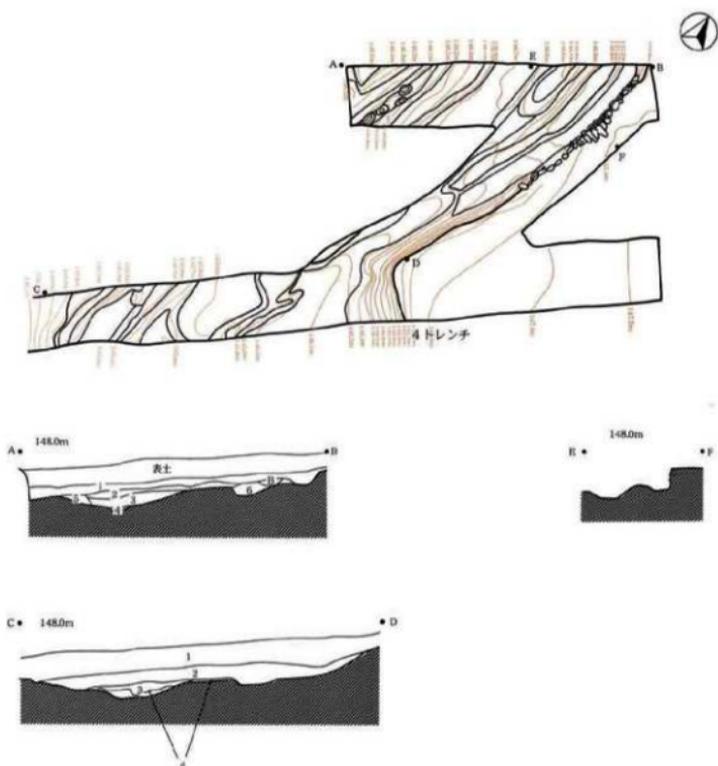
第9图 K-1号墳・K-2号墳出土遺物実測図

遺物名称	部 種	規格 (cm)	胎 土 色 調	質 料	備 考
1号瓶 K 0 1	深鉢 甕	高さ 41.8 口径 40.0	赤褐色赤砂、 灰胎	2/3	口内口縁部、外縁部は赤褐色胎土の厚 層が認められる。内面全体は胎 土層が厚く付着物、及び産物あり。
1号瓶 K 0 2	深鉢 甕	高さ (21.8) 口径 (8.4)	赤砂質赤褐色 灰胎	2/3	外周部は胎土の厚層が認められ、 底面は赤褐色胎土、付着物あり、内面は 胎土あり。
2号瓶 K 0 3	深鉢 甕	高さ 48.7 口径 50.0 底径 17.4	赤砂質赤褐色 灰胎	2/3	内面は胎土1cm/3厚の付着物あり。
2号瓶 K 0 4	土器 甕	高さ 31.0 口径 11.5 底径 -	赤褐色赤 灰胎	10/9	外周部内面は胎土、内面は 胎土あり。口縁部内周部は胎土 層が厚く付着。
3号瓶 K 0 5	深鉢 甕	高さ (29.0) 口径 (14.0) 底径 (10.4)	赤褐色赤 灰胎	9/2	内面は胎土層が厚く付着、 外周部は胎土あり。

第4表 出土遺物観察表



第10図 溝状遺構実測図(1)



層	厚	色	土質	結核	遺入物			備考
					A	B	F	
1	埋戻色土層		△	△	◎	△		
2	埋戻色土層		△	○			○	
3	埋戻色土層		X	X				水性層
4	埋戻色土層	2<4	○	○		△	△	
5	埋戻色土層	4<6	○	○		○	△	



第11図 溝状遺構実測図(2)

VI まとめ

遺跡周辺の現況

屏風岩遺跡の周辺には、前記したように古墳が数多く知られている。古くは「上毛古墳総覧」「安中市誌」で確認されている。また、近年では市内遺跡詳細分布調査により詳細な確認調査が行われ、古墳の確認数も増加した。今回の屏風岩遺跡の調査では、当初、目視できる状態で古墳を確認することはできなかった。現在に至る耕作により破壊・平夷されてしまい、現状に於いては確認できない状態であった。このような状況は本遺跡だけではなく、隣接する高崎市八幡遺跡などでも見ることができる。つまり、この丘陵全体が耕作により平夷されてしまっているが、耕作土の下に埋蔵されている古墳などが数多く存在しているということである。

烏川の上位段丘面であるこの地区は、緩やかに東へ傾斜しており、住宅地開発には良好な場所である。高崎市の行政区域内はすでにかかなりの部分が宅地化されていて、国指定史跡観音塚古墳のまわりも住宅地が密集している。安中市側については、宅地化されてはいるものの、桑畑や梨などの果実畑がいまだに多い。しかし、今後宅地化が進むことは必至で、開発にあたり文化財に十分な注意が必要な地区といえる。

古墳の築造時期

今回の調査に於いて古墳は3基確認された。いずれの古墳も周堀を含め直径約20m程の規模を有しており、K-2号墳以外石室の石は取り除かれた状態であったが、掘り方及び周堀の状態などから主軸方向はほとんど同じと思われ、南に向かって開口している。そして、3古墳とも周堀の内外に多くの小ピットを有している。

遺物の出土を見ると、K-1号墳、K-2号墳の周堀から数点確認されただけで、K-3号墳から遺物は検出されなかった。検出された須恵器と土師器は、7世紀中頃から後半の時期のものと思われる。K-2号墳の石室構造や、周堀から大型の須恵器甕の破片が出土する状況などからも、遺物が古墳の築造時期を示すと考えられる。

先に述べたように、この地域一帯には古墳が多く確認されている。そのほとんどは墳丘規模が10m程度の円墳が多い。本遺跡に隣接する高崎市の八幡遺跡では円墳22基が確認され、7世紀中頃の時期が考えられている。つまり、本遺跡と八幡遺跡は同一の古墳群として捉えることが可能であり、これらはこの地域一帯に広がる終末期群集墳の一部を形成する古墳として捉えることができよう。また、この地域内には5世紀末と考えられる平塚古墳、6世紀末葉から7世紀初頭と考えられている観音塚古墳などがある。観音塚古墳は前方後円墳築造の最終段階のもので、

これ以降群馬県内に於いて前方後円墳は築造されなくなることから、大和政権が中央集権的支配体制を目指し、地方へ積極的な行動をとろうとする政策の変換期にあたと考えられている古墳である。そして、その後の律令的地域再編の時期に、本遺跡を含む古墳群はかかわってくるのであろう。

引用・参考文献

- 神戸聖詔他 1989 『八幡遺跡』 高崎市教育委員会
千田茂雄他 1992 『安中市の遺跡』 安中市教育委員会
石島和夫他 1990 『古墳時代の研究 11 地域の古墳Ⅱ 東関東』 雄山閣

写 真 图 版



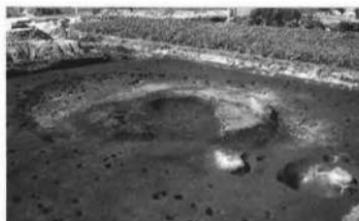
屏風岩遺跡遠景



屏風岩遺跡全景



1号墳全景



1号墳南側入口方向より



1号墳東西セクション



1号墳南北セクション



1号墳南北セクション



3号墳全景



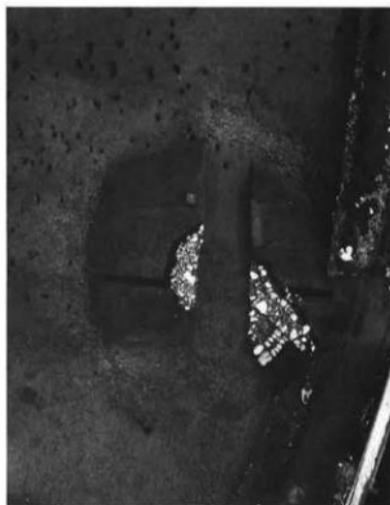
3号墳東西セクション



2号墳跡除去前



2号墳羨道部跡除去後



2号墳全景



2号墳羨道部東壁



2号墳羨道部南入口方向より



2号墳南北セクション



2号墳東西セクション



サブトレンチ 1



サブトレンチ 2



1 トレンチ



2 トレンチ



3トレンチ堀2 セクション



調査風景スナップ



K-1号墳 甕



K-1号墳 長頸瓶



K-2号墳 甕



K-2号墳 坏



K-2号墳 長頸瓶

屏風岩遺跡

株式会社前橋紙工場建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日 平成11年1月29日

編集・発行 安中市埋蔵文化財発掘調査団

群馬県安中市安中1丁目23-13

印刷 サカエ印刷

発 掘 調 査 抄 録

ふりがな	びょうぶいわせき
書名	屏風岩遺跡
副書名	株式会社前橋紙工工場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	千田茂雄
編集機関	安中市教育委員会
編集期間所在地	379-0192 群馬県安中市安中一丁目 23-13
発行年	西暦1999年1月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ′	東経 ° / ′	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
びょうぶいわせき 屏風岩遺跡	あんちゅうし 安中市板 橋紙工 場字屏 風 岩	102113	E-4			19890714- 19891031	2,400㎡	株式会 社前 橋紙 工 場 建 設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
屏風岩遺跡	古墳	古墳時代	古墳3基	須恵器・土師器	